



# 取り付けかた (つづき)

## 8. 横幕板・前ふたの取り付け

■ 横幕板 (別売品) を使用する場合 (図 8-1)

1 ハーフカット部を打ち抜きます。本体天面の四隅にあるハーフカット部をプラスドライバーの先端等で上から打ち抜きます。

2 横幕板を取り付けます。  
1) 本体天面に横幕板 2 枚を図のように置き、横幕板に付属の取付ねじ各 2 本で横幕板を本体内側から固定します。(打ち抜いた穴を使用します。)

2) 横幕板に付属の丸木ねじ各 1 本で横幕板を壁面に固定します。

3 前ふたを取り付けます。(図 8-2)

1) 前ふた裏面のツメを本体の長穴に差し込み、前ふたを手で押さえずながら上側 2ヶ所を付属品のローレットねじ 2本で固定します。

前ふた高さ 600mm の場合のみ  
前ふた上部両端にあるツメを横幕板の角穴に差し込みながら取り付けてください。取り付け後、両側とも確実に差し込まれたことを確認してください。

2) 下側 2ヶ所を付属品の取付ねじ (M4×10) 2本をそれぞれ本体内側から固定します。

2 整流板を取り付けます。(図 9-2)

1) 整流板引掛け金具をフードの整流板吊り金具に引っ掛けます。

2) 前蓋をゆっくり持ち上げて左右のストッパーがロックするまで押し上げます。

3) 整流板を軽く上下に動かしてみても確実に取り付けられたことを確認します。

● お願い  
整流板の固定は確実にこなさなくてはなりません。ロックが不十分ですと整流板の落下の原因になりますので、取り付け後、再確認してください。

## 9. 試運転の準備

1 スロットフィルタを取り付けます。(図 9-1)

スロットフィルタを手で支えて後側を本体の板ばねに押し当てながら、前側を本体の溝部分に差し込みます。

## 10. 試運転

⚠ 注意

● 運転中は指や物を絶対に入れないことが必ずあります

● 分電盤のブレーカーを「入」にし、スイッチを操作して運転状態を確認してください。スイッチの操作と運転状態については取扱説明書をご覧ください。

● 最終設置した状態で試運転してください。

● 運転時、各速調の排気が正しくおこなわれていることを確認してください。

● 異常な騒音、振動がないことを確認してください。

● 屋外の排気出口から排気され、異常音がないことを確認してください。

● 取り付けまたは各種工事に発生した不具合で修理を依頼されますと全て有料となりますので十分確認してください。

## 11. お客様への説明

- 取扱説明書によって機器の取り扱いを説明してください。
- 取扱説明書と共に、この取扱説明書を必ずお客様にお渡しください。

# 天井への取り付けかた (別売品のセンターキットが必要)

「安全上のご注意」、「取り付け上のお願ひ」は表面をご覧ください。

## 取り付け前の調査と準備

⚠ 警告

- 修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと  
発火・感電したり、異常動作してけがをすることがあります
- レンジフードは、薄板の金属部 (壁内ラス網など) と接触しないよう取り付けます  
漏電した場合、発火するおそれがあります
- 本体とダクトは、可燃物との間を 10cm 以上離すか、不燃材料を使用し可燃物を覆うこと  
火災などの原因になります  
詳しくは所轄の消防署に問い合わせてください
- レンジフードの壁への埋め込みはしないこと  
漏電した場合、発火するおそれがあります
- 排気工事をされる場合は建築基準法 (同施行令) および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと  
火災などの原因になります

⚠ 注意

- 取り扱いの際は、必ず厚手の手袋をすること  
鋼板の切り口や角でけがをすることがあります
- 周囲温度が 40℃ 以上になるところには取り付けないこと  
火災・故障の原因になります
- レンジフードの取り付けは十分強度のあるところを選んで確実にこなうこと  
落下によりけがをすることがあります  
取付材が強いと振動音がすることがあります

● 本書では製品高さ 600mm の場合を例に説明しています。

【製品高さ 400mm の場合】  
フード取付開口部横に点検口を設け、ダクト接続および吊りボルトによる取り付けを確実におこなってください。

1 天井面への穴あけ (取付詳細図-1 および右表を参照し、事前に管工事業者 (法的有資格者) へ天井面へのダクト穴の開口を依頼してください。また、天井開口部近くの補強材または野縁等に専用コンソートを設置してください。)

製品幅	天井開口寸法	
	前後	左右
450	400	400
600	400	550

2 吊りボルトの取り付け (取付詳細図-2)  
M10 の吊りボルトを 4 本、天井内側梁などの適当な部分に固定します。固定ピッチは下の表の通りです。  
※ 吊りボルトは、M10 を用いてください。

製品幅	固定ピッチ	
	前後	左右
450	350	350
600	350	500

● お願い  
M10 吊りボルト (4 本)、M10 ワッシャー (4 枚) およびナット (4 個) は取付作業員にて手配してください。

3 標準取付寸法  
本製品の標準取付寸法は、調理機器の上面から製品の下端まで 80cm です。  
※ 火災予防条例では、グリッドフィルターの下端が調理機器の真上 80cm 以上必要となっています。

4 電源コンセント・ブレーカー  
電源コンセント・ブレーカーは専用のものを設置してください。(交流・単相 100V)  
コンセントは、JIS C 8303 2 極差込接続器 15A 125V をご使用ください。

● お願い  
必ずアース (D 種接地工事) をしてください。レンジフードが誤動作することがあります。

取付詳細図-2 (単位: mm)

取付詳細図-1 (単位: mm)

# 取り付けかた

## 1. 付属品の確認

⚠ 注意

- 取り扱いの際は、必ず厚手の手袋をすること  
鋼板の切り口や角でけがをすることがあります

付属品を確認します。  
梱包箱から付属品および別売品を取り出し、表面の付属品一覧により不足がないか確認します。

● お願い  
取付作業の際は、キズ・破損のないように十分注意してください。

## 2. 取付準備

⚠ 警告

- メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造管部に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電氣的に接触しないよう取り付けすること  
漏電した場合、発火したり感電することがあります
- 排気工事をされる場合は、建築基準法 (同施行令) および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと  
火災などの原因になります
- 本体とダクトは、可燃物との間を 10cm 以上離すか、不燃材料を使用し可燃物を覆うこと  
火災などの原因になります  
詳しくは所轄の消防署に問い合わせてください

⚠ 注意

- 浴室など湿気の多い場所では絶対に使わないこと (浴室用換気扇をお使いください。)
- 周囲温度が 40℃ 以上になるところには取り付けないこと  
火災・故障の原因になります

4 スロットフィルタをはずします。(図 2-6)

スロットフィルタのつてを持って、スロットフィルタを手で支えながら少し押し込み、手前に引き出します。

## 3. 本体の取り付け

⚠ 注意

- レンジフードの取り付けは十分強度のあるところを選んで確実にこなうこと  
落下により、けがをすることがあります
- 部屋の取り付けは確実にこなうこと  
落下によりけがをすることがあります

1 レンジフードの固定位置を決めます。(図 3-1)  
吊りボルトにマジックペンなどで、天井から 140mm の位置にマーカをつけてください。

2 ナットとワッシャーを吊りボルトにねじ込みます。(図 3-2)  
M10 のナットとワッシャー (取付作業員の手配) を吊りボルトのマーカ位置までねじ込みます。

● お願い  
取付完了時、調理機器上面から本体下面まで 800mm にならない場合は調整してください。

3 本体を吊りボルトに固定します。(図 3-3)  
1) 本体を持ち上げて 4ヶ所の吊り金具に吊りボルトを差し込み、吊り金具を吊りボルト下側から M10 のワッシャーとナット (取付作業員の手配) でしっかりと締め付けます。

2) アース (D 種接地工事) を取ります。

3) 分電盤のブレーカーを「切」にし、電源プラグを天井裏などに設置したコンセントに差し込みます。

5 電気配線

⚠ 警告

- 修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと  
発火・感電したり、異常動作してけがをすることがあります
- 交流 100V 以外では使用しないこと  
火災・感電の原因になります
- 配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って法的有資格者が工事をおこなうこと  
誤った配線工事は感電や火災の原因になります
- アースを確実に取り付けすること  
故障や漏電のときに感電するおそれがあります  
アースの取り付けは販売店にご相談ください

1 アース (D 種接地工事) を取ります。(「3. 本体の取り付け」手順 3 の 2) でおこなってください。)  
※ アース線は取り付け作業員にて手配してください。

2 分電盤のブレーカーを「切」にし、電源プラグをコンセントに差し込みます。(「3. 本体の取り付け」手順 3 の 3) でおこなってください。)

● お願い  
・ 電源は専用のコンセント (2 極差込接続器 15A、125V) およびブレーカーを設けてください。  
・ コンセントは電源コードの長さを考慮し、設置してください。

6 横幕板・後ふた・前ふたの取り付け

● 製品高さ 400mm の場合、横幕板の取り付けはできません。

1 ハーフカット部を打ち抜きます。(図 6-1)  
本体天面の四隅にあるハーフカット部をプラスドライバーの先端等で上から打ち抜きます。

2 横幕板を取り付けます。(図 6-1)  
1) 本体天面に横幕板 2 枚を図のように置き、横幕板に付属の取付ねじ (M4×10・カラーなし) 各 2 本で横幕板を本体内側から固定します。(打ち抜いた穴を使用します。)

2) 横幕板に付属の丸木ねじ各 2 本で横幕板を天井面に固定します。

3 後ふたに取り付けます。(図 6-2)  
後ふた裏面の 2ヶ所の穴に、取付ねじ (M4×10・カラー付) 各 1 本をねじ込みます。(後ふたとの間に 2mm 程度のすきまが開きます。)

4 後ふたを本体に引っ掛けます。(図 6-3)  
前手順で後ふたに取り付けたねじを、本体背面にあるかき穴に引っ掛けます。

5 後ふた下部を固定します。(図 6-4)  
後ふた下部にある 2ヶ所の穴に、ローレットねじ (M4×15) 2 本を本体内側からねじ込みます。

※ 後工程で後ふたの位置調整を行いますので、ローレットねじはきつめ締めすぎないでください。

6 後ふたを固定します。(図 6-5)

1) 後ふたを上方向に持ち上げながら位置調整をおこなってください。かき穴の上方にある 2ヶ所の穴に、ローレットねじ (M4×15) 2 本を本体内側からねじ込みます。

● お願い  
後ふた高さ 600mm の場合のみ  
後ふた上部両端にあるツメを横幕板の角穴に差し込みながら取り付けてください。取り付け後、両側とも確実に差し込まれたことを確認してください。

2) ローレットねじ 4ヶ所をきつめ締め付けて後ふたを固定します。

7 前ふたを取り付けます。(図 6-6)

1) 前ふた裏面のツメを本体の長穴に差し込み、前ふたを手で押さえずながら上側 2ヶ所を付属品のローレットねじ 2本で固定します。

前ふた高さ 600mm の場合のみ  
前ふた上部両端にあるツメを横幕板の角穴に差し込みながら取り付けてください。取り付け後、両側とも確実に差し込まれたことを確認してください。

2) 下側 2ヶ所を付属品の取付ねじ (M4×10) 2本をそれぞれ本体内側から固定します。

## 7. 試運転の準備

1 スロットフィルタを取り付けます。(図 9-1)

スロットフィルタを手で支えて後側を本体の板ばねに押し当てながら、前側を本体の溝部分に差し込みます。

2 整流板を取り付けます。(図 9-2)

1) 整流板引掛け金具をフードの整流板吊り金具に引っ掛けます。

2) 前蓋をゆっくり持ち上げて左右のストッパーがロックするまで押し上げます。

3) 整流板を軽く上下に動かしてみても確実に取り付けられたことを確認します。

● お願い  
整流板の固定は確実にこなさなくてはなりません。ロックが不十分ですと整流板の落下の原因になりますので、取り付け後、再確認してください。

## 8. 試運転

⚠ 注意

● 運転中は指や物を絶対に入れないことが必ずあります

● 分電盤のブレーカーを「入」にし、スイッチを操作して運転状態を確認してください。スイッチの操作と運転状態については取扱説明書をご覧ください。

● 最終設置した状態で試運転してください。

● 運転時、各速調の排気が正しくおこなわれていることを確認してください。

● 異常な騒音、振動がないことを確認してください。

● 屋外の排気出口から排気され、異常音がないことを確認してください。

● 取り付けまたは各種工事に発生した不具合で修理を依頼されますと全て有料となりますので十分確認してください。

## 9. お客様への説明

- 取扱説明書によって機器の取り扱いを説明してください。
- 取扱説明書と共に、この取扱説明書を必ずお客様にお渡しください。